

理事長 東日本学園
鈴木 英二

すずきえいじ ●1978年学校法人東日本学園入職。事務局長、副理事長などを経て、2021年10月より現職。

学生から選ばれる大学づくりのために
学生の声を聞き教育改善につなげていく

同じ使命感のもと、
経営と教学を
役割分担

——「学生キャンパス副学
長」制度など、学生の声
を運営に生かす意図は？

理事長 本学は創立して
50年と若い、後進の医療
系総合大学です。そのた
め、常に課題を探して見
直しを繰り返し、学生か
ら選ばれる大学づくりに

努めています。近年は全国各地で
医療系の学部の新設が相次ぎ、競
争が激化し、高校生や学生にとつ
て、本学で学ぶ魅力づくりは最重
要課題です。そのため、学生の声
を聞き、共に教育環境の改善、充
実に取り組む「学生キャンパス副
学長」（以下、学生副学長）制度

を2008年
から取り入れ
ています。

学長 国家資
格をめざす学
部が多い本学
の場合、カリ
キュラムに縛
りがあるため
教育「内容」
の差別化は難
しく、魅力を
打ち出すなら

教育「手法」ということになりま
す。これまで本学は、多職種連携
によるチーム医療の学びを特徴と
してきました。学長に就任し、医
療従事者をめざす学生に選ばれる
ような大学の魅力とは何かを考え
たとき、私は「就職後に困ったと
きに頼りになるような大学」が思

卒業後にいつでも戻って来られる、
戻って来なくなるキャンパスをめざしたい



学長 北海道医療大学
三国 久美

みくにくみ ●1993年東日本学園大学(現北海道医療大学)大学院看護福祉学研究所博士課程修了。2007年同看護福祉学部看護学科教授。2019年同学部長。2024年4月より現職。

みんなで挑む！

学修者本位の キャンパスとガバナンス

「学生キャンパス副学長」制度を設け、学修者本位の大学づくりに取り組む北海道医療大学。キャンパス移転という大きな意思決定がなされた今、学生のためのガバナンスのあり方について聞く。

北海道医療大学
理事長×学長×学生
座談会

い浮かびました。この背景には、
かつて、自分が保健所に勤めてい
た際に経験したリアリティシヨッ
クや、ケアに対する壁があります。
医療職は、資格取得しさえすれば
終わりではなく、現場で働いて初
めてわかることが多々あります。
だからこそ、「卒業後のよりどこ
ろ」になるような大学づくりを
めざしたいのです。

理事長 学長と私は、学修者本
位の教育が本学の使命だという点
で一致しており、教学は学長に一
任しています。理事長の私の役割
は、学長が活動しやすくなるよう
人的・物的・資金的バックアップ
を行うことだと考えています。

中川 薬剤師をめざしています。
医療や福祉の世界では、今、他の
職種と協働してケアの質を向上さ



薬学部
4年
北海道医療大学
中川 明音

なかがわあかね●2021年入学。先輩の活動を見て学生副学長を知り、2022～2023年、第15期学生副学長として活動。手に職をつけようと薬学部を選んだが、現在は研究者への道も視野に入れる。

資格取得だけが大学のゴールではないはず、多様な意欲が後押しされる環境を

ました。教育も医療も時代の変化が激しいので現役の先生に教わりたいし、就職後に医療機関と連携することを考えると、その経験も積んでおきたいからです。症例を見て支援のしかたを考えさせる授業があったり、学生が参加できる学会や講演を案内してくれたり、主体的に学びたい人にはうっ

学生キャンパス副学長

各学部から1人ずつ、選挙によって選ばれた学生計6人が、より良い大学づくりを目的に各種プロジェクトを立ち上げ、活動する。任期は1年間(8月～翌年7月)。就任した学生には1人につき活動費30万円とブレザー、専用活動室が与えられる。学務部学生支援課を中心とする教職員、卒業生が活動を支援。

〈過去のプロジェクト例〉

- リアルヴォイスアンケート(コロナ禍における学生の声を調査)
- 薬物乱用防止対策(学外団体から依頼を受けて実施)
- 当別町150周年記念イベント
- 他大学視察 ●大学ブランド商品開発
- 学部間交流 ●成績向上 ●リサイクル



学生キャンパス副学長Webサイト

とが入学の決め手になりました。教育も医療も時代の変化が激しいので現役の先生に教わりたいし、就職後に医療機関と連携することを考えると、その経験も積んでおきたいからです。症例を見て支援のしかたを考えさせる授業があったり、学生が参加できる学会や講演を案内してくれたり、主体的に学びたい人にはうっ



心理学部
3年
北海道医療大学
平田 勇輝

ひらたいさき●2022年入学。1年次から学部学生部の教員に学生副学長参加を勧められ、2年目に意を決して立候補。2023～2024年、第16期学生副学長。将来はスクールカウンセラーをめざす。

「言ったら変わる」空気をつくる

僕ら学生も提案と実現の実績をつくって

せる多職種連携が重視されるようになっていきます。「医療系総合大学」として、他学部の先生に教わったり、学部合同で学んだりする機会が多いところに魅力を感じ入学しました。今4年生で、来年は薬局実習に行きます。AIの普及で薬剤師業界の自動化が進む中、人の手でしかできないことは何なのかを考えながら、授業で学んできた知識と現場での実感をすり合わせていきたいと思っています。

平田 中学校時代、スクールカウンセラーに助けられた経験をきっかけに、自分もこの仕事をめざそうと決めました。公認心理師の受験資格を取れる大学は道内にいくつかありますが、現役カウンセラーの先生がいることと、中川さんと同じく多職種連携に強いことが入学の決め手になりました。教育も医療も時代の変化が激しいので現役の先生に教わりたいし、就職後に医療機関と連携することを考えると、その経験も積んでおきたいからです。症例を見て支援のしかたを考えさせる授業があったり、学生が参加できる学会や講演を案内してくれたり、主体的に学びたい人にはうっ

つけの環境です。

学長 よかった。いくら教育方法を工夫しているつもりでも、学生の受け止め方を知らないで、大学側の自己満足で終わってしまいません。今後も学生との対話を重ね、教育改革を進めていきます。

学部間の協働を促してスピード感ある改革を

学長 今、進めたいと思っていますのは学部間連携です。一部の学部では、積み上げた学びを学生が振り返るポートフォリオが効果を上げています。こうした各学部の優れた手法を全学展開し、教育の質を上げていく事を考えています。

平田 心理学部にも、学んだことを振り返る機会があります。が、授業によ

のですが、業務上の協働はこれからです。知見やリソースを共有できれば、改革のスピードが上がるはずです。

中川 学生副学長は、学部ごとにいるので、学生副学長同士で学部間の情報交換をして、「他学部の取り組みをうちの学部でもやってほしい」といった要望を大学に伝えられる立場にあります。私は2022年の8月から1年間、薬学部の学生代表として第15期学生副学長を務めました。在任期間は、コロナによる対面機会の制限がやっと緩和された時期だったのですが、まずは学生間の交流を復活させようと、スポーツイベントなどを企画するほか、後援会とコラボして国家試験の受験勉強に励む学生向けに食事の無料提供を実施し

ゼロからのキャンパスづくり 学生のアイデアを生かしていく

ました。しかし、教育環境の改善については、学生アンケートの結果を大学に報告したところで任期が終了してしまったので心残りです。学生が声を上げ、大学に提案できる制度があること自体がいいことなので、この制度を利用して、大学運営に携わりたいという学生をもっと増やしたいところです。



平田 私をはじめとした16期の学生副学長は、中川さんたちの代が集めた学生アンケートを分析して、要望の内容、実現したときのメリットや実現するまでの課題を整理しました。自習室設置の要望が多かったことを知った学生支援課の職員さんに勧められて、他大学の視察にも赴き、空き教室をアプリで管理して、自習スペースにするというヒントを得ました。この先は、次の17期の副学長に引き継ぎます。

学長 学生の声の窓口は学生支援課が担っています。それに加え、学生自身が自らアンケートを取り、要望をわれわれに直接届けてくれています。要望にはできるだけ応えるつもりですが、実現できないことが出てきたとしても、理由をしっかりと説明したい。その積み重ねが学生からの信用につながると思うからです。

理事長 学生の声を生かす場はもっと増やしたいと思っています。将来的には、各学部の教務委員会などに学生を入れて、教育の内容や方法を改善していくことも

検討しています。

移転を機に加速する 学生中心の大学づくり

—2028年に予定する北広島市へのキャンパス移転に、学生の声をどう生かしますか？

理事長 移転の決断を後押ししたのも、学生の声でした。現在のメインキャンパスである当別キャンパスは、石狩平野の広大な敷地に学部棟や実習室に加え、附属の菌科クリニックや薬用植物園もある、落ち着いて学べる学習環境です。札幌から電車1本で1時間以内、大学名がつく駅から直結というアクセスも、設置した当初は本学の魅力になっていました。しかし、時代は変わりました。

学長 学生アンケートでは、冬季は積雪による列車の遅延や国道の閉鎖で大学に通えない、帰れない、アルバイト先が見つけにくいという問題が寄せられました。入学辞退者調査で挙がった辞退の理由も、圧倒的に「立地」が多いのです。

理事長 2022年、理事会の事前検討機関として「理事会意見交換会」を立ち上げ、18歳人口減少下の生き残り策について議論を始めました。「公立化」「M&A」

など、あらゆる可能性についてシミュレーションする中で、利便性が高いうえに、本学の強みである保健、医療、福祉の連携をまっすぐに生かせる北広島市への「キャンパス移転」を決めました。

中川 キャンパス移転は私の卒業後ですが、きれいなキャンパスは魅力的です。新しいキャンパスづくりを機に、教材の電子化やデジタルシステムを使った教育の実施など、教育のICT化なども進むといいと思います。

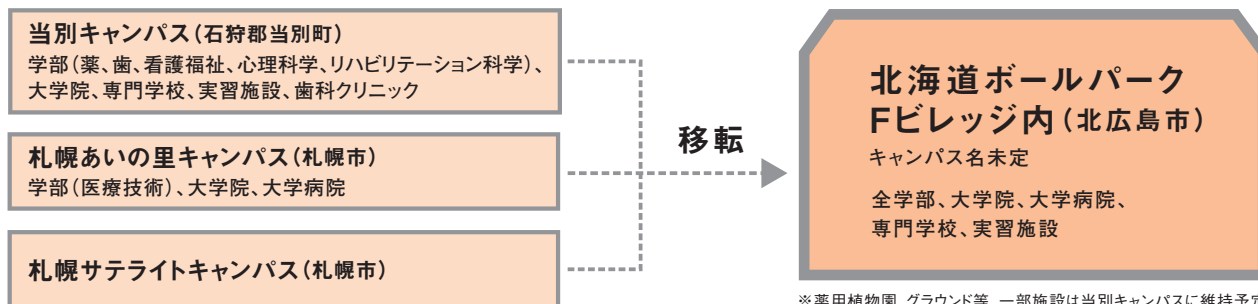
平田 すでにあるしくみを変えるのは難しいけど、ゼロからの新キャンパスづくりなら、いろいろ変えられそうです。学生にとつては、要望を取り入れてもらうチャンスです。例えば、今は同じキャンパス内でも学部棟が別々なので、連携授業を除くと他学部の人と交流することが、案外少ないのです。普段からもっと交わる機会があるといいのですが。

理事長 そのとおりですね。多職種連携についても日常生活でも、学部間の交流を促すような建物の設計を考えています。

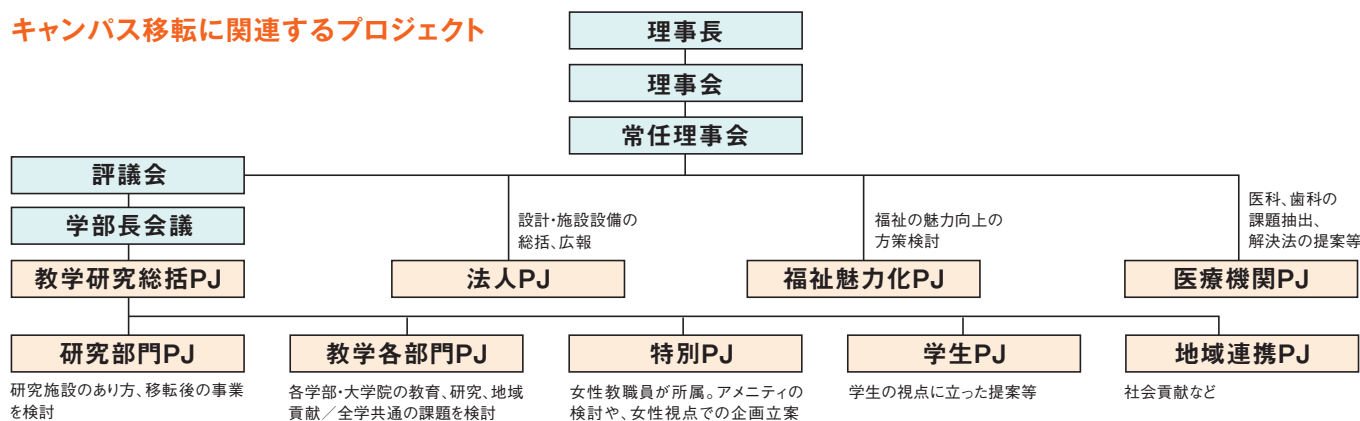
学長 2人のように、移転時には学部を卒業している学年だとしても、未来の母校の姿に興味を持ってくれる人は多いはず。その人たちにとつても戻って来たくな

キャンパス移転計画と、学生を交えた新キャンパスPJの体制

2028年～



キャンパス移転に関連するプロジェクト



る場所にしたいですね。今ちよう
ど、移転に関するプロジェクトを
いくつも立ち上げており、すでに、
女性教職員によるプロジェクトで
は、安心安全な職場環境について
議論しています。学生プロジェク
トも始めるので、ぜひ、意見を出
してください。

中川 新しいキャンパスづくり
に学生が参画できることは、とて
もいいことです。私自身の問題
意識として、医療系大学は、資格
取得がゴールになりがちになって
いると感じています。資格取得の
ための教育はもちろん大切ですが、
研究についても、もっと取り
組みたい。今、私はいくつかの研
究室に頼んで自主的に研究活動を
しています。学生の自主研究を支
援するしくみや環境の整備も願
います。

学長 なるほど、ありがとうございます。
学生がやりたいことを支えてこそ
の大学です。資格取得以外にも、多
様な意欲をサポートできないとい
けませんね。本学の学生には学び
の質を高めたいと考えるアクティ
ブな人が多く、授業で培ったケア
の精神を生かして、高齢者ボラン
ティアに取り組んでいるグルーブ
もあります。北広島市でもどんど
ん地域に出てほしい。学生が地域
に向き、地域の人々も気軽に利

用できる、オープンな大学をめざ
します。

理事長 現在、理事で客員教授も
務めてくれている卒業生がいま
す。彼は、学生時代に生活支援サー
ビスを行うボランティアセンター
をつくり、卒業後すぐに、同級生
と共に当別町で社会福祉法人を立
ち上げました。地域連携や医療・
福祉人材の育成について、いつも
貴重な意見をもらっています。
キャンパス移転プロジェクトのう
ち、福祉の仕事のやりがい発信
する福祉魅力化プロジェクトを提
案いただき、その責任者(担当理
事)として活動してもらっていま
す。

平田 卒業後に大学運営に関わ
る道もあるのです。移転という
この機会に、キャンパスは学生と
一緒につくるんだという姿勢を大
学には強くアピールしてほしい
し、僕ら学生も、大学に伝えた、
変わった、という実績を積み上げ
て、後輩に示し、学生の大学づく
りへの参画を促していく必要があ
るでしょう。

もし、卒業後に理事や評議員へ
の就任を頼まれたら？ 在学中に
はできなかったことも多いので、
そのときの自分の立場で、学生の
力になれることを考えてみたいで
すね。